目線を変えれば素晴らしい自然が見えてくる

かごしまカヤックス　代表

野元 尚巳さん

Nomoto Naomi

誰よりも鹿児島の海岸線を漕いだ経験があると自負する野元さんは、シーカヤックのツアーガイドにとどまらず、トレッキングや自転車など幅広く扱う「アウトドアガイド」として活躍する一方で、『しっかりとした安全対策なしに体験観光はありえない』と、プロのガイド育成や受け入れ体制づくりにも取り組んでいる。

また、海外へ何度も遠征した経験をもとに、カヤック専門誌へのレポート執筆や講演活動のほか、アウトドア系の著名なライターたちとのネットワークを使って全国に鹿児島の魅力を発信している。

「世界に誇れる多彩な自然が鹿児島にはある。もっと自然と触れ合って『外遊び』をしてほしい」と話す野元さんに、鹿児島の魅力や自然の楽しみ方について語っていただいた。

氷河から流れ出した氷を適当な大きさに割って「氷河オンザロック」。ピチピチと数万年前の空気が弾ける音がする。（2006年 アラスカ単独シーカヤック遠征）

これまでにどんな体験を

若いころは、「すごい自然」と言えば、日本では北海道くらいにしかないと漠然と思いながら、日本各地や海外を旅しました。

転機は1999年にアラスカをシーカヤックで旅したときのこと。日本では見られないような世界を体験した旅の終わりに、カナダのユニオンレイクから見たシアトルの街の景色が、錦江湾から見た鹿児島の街の景色とオーバーラップしたんです。「自分はいったいどれだけ鹿児島のことを知っているのか」と感じ、南から北まで全部見てやろうと、翌年から沖縄―鹿児島間の単独

シーカヤック遠征を実行しました。

与論島や奄美大島、トカラ列島などを島伝いに旅したのですが、変化に富んだ島々が点在し、すばらしい自然や独特の習慣が残っていることを知りました。途中、黒潮の強い流れにさえぎられて命の危険を感じたこともありましたが、立ち寄った島々での人々との出会いや交流は忘れられません。

昨年は、自転車で単独オーストラリア大陸横断も達成しました。これは23歳の時に一度挑戦して途中で挫折した旅を、約30年経ての再挑戦です。最高気温が50度にも達する激しい気象変化の中、約2カ月かけて雄大な自然を味わいました。ただ、あらためて日本の良さを見直す旅でもありましたね。

世界を旅して感じる鹿児島のよさは

例えば、長島の多島海景観、日本三大砂丘の吹上浜、坊津のリアス式海岸、魚が豊富な内湾の錦江湾、その真ん中には世界有数の活火山・桜島、佐多岬や甑島の断崖、レインフォーレスト（降雨林）の屋久島、硫黄島の染色海域、サンゴ礁の広がる南西諸島…。鹿児島には、さまざまな形態の自然や海がそろっています。ここで見られないのは流氷の海くらいでしょう。

海からの眺めだけでなく、九州自然歩道もおすすめです。尾根伝いの道を歩くと錦江湾を見下ろす景観が広がり、普段目にしているものとは違う鹿児島の自然の良さが見えてきます。そのほか、火山のおかげで温泉が多く、銭湯がほとんど温泉なのも鹿児島の魅力。桜島には、手で掘れば温泉が湧く砂浜や、海中温泉もあります。

こんなに恵まれた環境が身近にあるのに、遊ばないのはもったいない。まずは、車を止めて歩いてみることです。目線を変えてみることで、鹿児島がもっと面白くなります。

前も後ろも地平線が果てしなく広がるナラボー平原にある、約150kmも続く直線道路。強烈な日差しと熱風の中を駆け抜けた。（2009年 単独オーストラリア大陸横断）

いま取り組んでいることについて

錦江湾や桜島という素晴らしい自然の素材はあるので、それをうまく活用した楽しみ方を伝えられるガイドが必要です。そこで、プロの体験観光ガイドを育成する会社をスタートさせ、桜島で常にカヤックツアーを体験できるような受け入れ体制をつくっていきます。

九州新幹線の全線開通はいいきっかけになりますよ。鹿児島に来る観光客に、空き時間を利用して「ちょっと3時間くらい遊ぶ」という感覚で体験してもらいたいんです。修学旅行の生徒たちも受け入れていきたいですね。さらに、安全管理がしっかりとできる有資格者のガイド仲間を加えて、薩摩半島や大隅、甑島など県内全域に受け入れ体制を整えていきたいと思っています。

そうやって、プロのガイドたちが安定した仕事ができるような環境を作っていくことで、滞在客が増加し、宿泊や飲食施設など周辺産業への経済効果にもつながるはずです。

今後やりたいことは

しばらくはガイドの育成などで忙しいですが、その次にはやりたいことがあります。ギアナ高地のテーブルマウンテンや、ヒマラヤ、アラスカでのリバーカヤックなど、すでに候補はいくつか考えています。

「いつかはやろう」などと考えていたら、結局できなくなってしまうものです。私は、本当にやりたいことは「いつか」ではなく「次にやる」と考えるようにしています。やれる可能性があったらやる、好きなことはあきらめない。妻とも「お互いやりたいことはやめない」ということにしています。

ある人の言葉ですが、「成功」の反対は「失敗」ではなく「やらないこと」。もし失敗しても、それは成功への一つのプロセスなんです。何事も、やらなかったら成功することはありません。これからも自分の能力ぎりぎりの可能性に挑戦していきたいですね。

水面からの目線で見上げる桜島は大迫力！カヤックツアーでは、大噴火のときにできた小さな島や、サンゴ礁、海中温泉など、周囲の海岸線の珍しいスポットも案内している。